

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	805 図書館管理経費	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
		目	07	図書館費
基本 施策	33 だれもが生きがいを持てる機会をつくる	細目	447	図書館管理経費
		細々目	01	図書館管理経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部署	コード	450700		担当者 氏名
	名称	上野図書館		
			連絡先	21 - 6868 (内線)

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	市民(図書館利用者)に、さまざまな知識と情報を提供し、学習機会の提供に努める。	※対象件数
成果(どうする)	知識や情報を市民の共有財産として共有化することにより、「知る」という人間の本質的な欲求が満たされ、市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができる。	
根拠法令・要綱等	図書館法、伊賀市上野図書館設置条例、文字・活字文化振興法、子供の読書活動の推進に関する法律	
開始年度	平成	年度
終了年度	平成	年度
H21		関連事業
事業内容	所蔵資料の閲覧、貸し出し、レファレンス、リクエスト予約、読書感想文コンクール、おはなしの会、読み聞かせ会、インターネット蔵書検索、としょかんだよりの発行、インターンシップ実習生の受け入れ、一般図書・児童図書・郷土資料・参考資料等の購入、古文書整理調査、地域資料の収集・保存・提供、図書館施設の維持管理	
社会情勢の変化等	自己判断・自己責任型社会への変化に対応するために、すべての市民に必要な十分な情報が、いつでも提供できる地域社会の実現が求められている。その意味において、地域の情報拠点としての公共図書館の整備充実が必要とされている。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	業務の一部を伊賀市文化都市協会へ委託
2 配置人員	2人
3 年間運営費	73,539 千円
4 市内の類似施設	公民館図書室

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
開館日数		日	目標 264	目標 276	277	278
			実績 264	実績 277		
貸出利用者数		人	目標 48000	目標 48500	55000	56000
			実績 48911	実績 54389		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
入館者数		学習機会提供の評価指標	人	目標 98000	目標 99000	100000	100000
				実績 94042	実績 104616		
貸出し数		知識や情報提供の評価指標	冊	目標 202000	目標 203000	230000	233000
				実績 203997	実績 222807		

投入コスト	H20 決算		H21 決算		H22 当初予算		H23 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計(A)	59,764	58,280	59,139	61,000				
Aの財源内訳								
国庫支出金			900					
県支出金								
地方債								
その他	158	178	140	140				
一般財源	59,606	58,102	58,099	60,860				
事業投入人員費(B)	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400	2.0人 14,400				
フルコスト(A)+(B)	74,164	72,680	73,539	75,400				

事務事業の評価(Check)

	判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
	市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業	○
	国や県、民間が同様のサービスを提供している事業	
	市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業	
	民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業	○
	受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○
有効性	事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業	
	【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】	
	市民が知識や情報を得るための拠点として、図書館の果たす役割は大きい。入館者数、貸出図書数とも昨年来を上回り増加傾向にある。	○
	財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	
	【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
	年間、10万人を超える利用者への影響や市民が生涯教育の場を失うことにより、将来の市民生活発展に影響を与える他、その文化発展を大きく阻害するものである。	○
	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
	当初設定した計画を 80%以上100%未満 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
効率性	予算の繰越の有無	有
	【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	繰越明許費
	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求められることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	年々変化する市民の多様なニーズに応じた図書館資料(蔵書)を充実させるとともに、レファレンス業務の向上に努める。
【状況】	計画のとおり進んでいる
【詳細】	
昨年度の取組状況	利用者の利便性の向上を目指し、図書館資料の充実を図る一方で、利用者の最も利用の多い土・日については基本的に閉館とし、利用者登録における本人確認書類についても見直しを実施した。また、これまで文書依頼により実施してきた団体貸出について、利用の簡略化を図るために団体貸出カードによる方式に変更した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	山本 雅晴
【方向性】	現状維持
【理由】	
事業の方向性	年間、10万人の入館利用者のある市民を対象としたサービス施設であり、近年、手狭になりつつあるが、市民文化の向上・発展の拠点として、事業を進めていく。
現時点における課題、その他	伊賀市合併に伴い、より広域の市民が利用する施設となったが、26台を収容することができる付属駐車場では直ぐに満車となることから利用者から拡張が求められており、利用の拡大を阻害する要因となっている。現施設は建築後26年を迎え、施設・設備の老朽化が進行し、大規模な設備の交換や修繕等が課題となってきている。また建築当初の書庫は20万冊の蔵書容量で計画されたものであるため、飽和状態に達しようとしている。書庫には雨の吹き込みなどもあり、施設・設備の改善が課題となっている。
課題、その他に対する改善策	駐車場については、現敷地内の拡大拡張は敷地一杯に建設されていることから困難であり、隣接地での確保も民家や道路に囲まれていることから困難であると考えられるので、現在計画されている生涯学習センターの駐車場について図書館利用者が利用できるように提案している。又、施設・設備については、計画的に交換入替を講じていく必要があり、今後、段階的に進めていきたい。
(いつまでに、何を、どうする)	